

# 平成16年度 事業報告

オリンピック憲章に基づく国内オリンピック委員会として、寄附行為に掲げる目的を達成するため、以下の諸事業を実施した。

## スポーツ選手を育成・強化する事業

### 第28回オリンピック競技大会選手団派遣事業

平成16年8月13日～29日 ギリシャ アテネ市

竹田恆和団長以下513名を派遣。実施26競技に参加、金16、銀9、銅12の計37個のメダルを獲得した。

### 第22回ユニバーシアード冬季競技大会選手団派遣事業

平成17年1月12日～22日 オーストリア インスブルック市

片岡勲団長以下154名を派遣。実施4競技に参加、金5、銀6、銅6の計17個のメダルを獲得した。

### 選手強化事業

#### 1. 強化合宿事業

##### 1) 海外強化合宿

オリンピック強化指定選手をはじめ、トップレベルにある選手の一層の強化を図るため、海外での強化合宿を実施した。

27競技 152行事 1,757名

##### 2) 国内強化合宿

各競技のナショナルチームの育成・強化を図るため、国内における強化合宿を実施した。

37競技 261行事 9,849名

#### 2. コーチ力強化事業

##### 1) 専任、ジュニア強化コーチ等の設置

長期一貫強化対策に基づき、トップアスリートの育成・強化を図るため、年間を通じ専任コーチを設置した。また、次代を担うジュニア層の育成・強化に向けジュニア強化コーチを設置した。

専任コーチ 29競技 56名

ジュニア強化コーチ 26競技 44名

##### 2) 海外優秀コーチ設置

世界でトップレベルにある外国人コーチを招聘し、優れた指導方法の導入等を図った。

6競技 13名

##### 3) コーチ研修派遣

指導力の一層の資質向上と現場での情報収集を目的として、現役コーチを国内外へ研修派遣した。

6競技 17行事 43名

##### 4) スタッフ会議等の開催

各競技における強化スタッフの相互研修・情報交換等を通じて、指導力の向上と指導体制の充実を図るため、各種会議を開催した。

総合コーチ会議 1回

### 3. スポーツ国際交流事業

世界のトップレベルにある諸外国の選手・チームとの交流を通じて実戦経験を積み、競技力の向上を図った。

- |             |      |       |                    |
|-------------|------|-------|--------------------|
| 1) チーム派遣    | 36競技 | 219行事 | 2,912名             |
| 2) チーム招待    | 2競技  | 2行事   | 62名                |
| 3) 日韓スポーツ交流 | 12競技 | 27行事  | 621名               |
| 4) 日中スポーツ交流 | 9競技  | 9行事   | 188名(文部科学省よりの委嘱事業) |

### 4. 調査研究事業

JOC GOLD PLANに基づく、各種プロジェクト及び医・科学サポート等を実施した。

### 5. 強化対策事業

オリンピック強化指定選手等を対象に健康管理を実施するとともに、選手強化事業全般の企画・運営及び情報収集等を行った。

#### アンチ・ドーピング推進支援事業

国際総合競技大会へ派遣する日本代表候補選手に対してドーピング検査の実施と支援を行うとともに、アンチ・ドーピング活動を推進した。

#### スポーツ指導者海外研修事業

オリンピック競技大会のメダリスト等、豊富な競技経験を有する者を一定期間海外に派遣することにより、将来を担う指導者の育成、国際競技力の向上及びスポーツの底辺拡大を図った。

長期派遣(2年間) 3名

短期派遣(1年間) 10名

#### 組織基盤強化事業

国際スポーツ社会で活躍が期待できる人材養成のため、事務局職員を含めたマネジメントスタッフ4名を国際スポーツ組織等に派遣した。

## オリンピック・ムーブメントを推進する事業

#### オリンピックデー記念事業

オリンピックとともに参加するジョギング大会を中心とした「オリンピックデーラン」を全国10会場において実施、また、オリンピックコンサートを開催した。

#### スポーツ情報の提供事業

オリンピック大会をはじめとするスポーツに関する各種情報を機関誌「オリンピック」等の定期行物やインターネットホームページ《<http://www.joc.or.jp>》、及びオリンピックフォーラム、各種セミナー等を通じ広く情報提供を行なった。

## その他本会の目的を達成するために必要な事業

### マーケティング事業

肖像権及びマーク等商標権の活用により財政基盤の確立を図るとともに、2005年以降の新プログラムの検討を含めたマーケティング活動を推し進めた。

### スポーツ環境保全活動

I O C が取組んでいるスポーツを通じた環境保全行動にもとづき、本会事務所の環境管理システムを構築し、スポーツ関係者に対し環境保全の必要性を広めるための啓発活動を実施した。

### 国立スポーツ科学センターとの連携

選手強化事業推進のため、調査研究事業、選手の健康診断等を実施した。